

第10回新城市若者議会

令和5年11月7日（火）午後7時00分から午後7時55分
新城市議会 議場

開 会 午後7時00分

1. 若者議会議長あいさつ

○平井緑空議長 若者議会議長の平井です。若者議会条例第6条第1項に基づき、本日の進行を務めさせていただきます。

ただいまから第10回新城市若者議会市長答申を行います。5月の第1回若者議会から私たちは、若者が活躍できるまちを実現するべく、様々な活動を行ってきました。8月の第6回の若者議会では、政策中間報告を行いました。その後も担当課職員の方々からアドバイスや意見をいただきながら話し合い、令和6年度若者予算事業計画を策定いたしました。本日は、若者議会市長答申ということで、3つの事業を説明させていただきたいと思っております。

2. 事業報告

○平井緑空議長 初めに、まちづくり委員会による「集まりん 深まりん かふえりん事業」です。お願いします。発表者は、木戸ゆめ(きど ゆめ)委員、梅田 禅之助(うめだ ぜんのすけ)委員、田畑 夏輝(たばた なつき)委員です。よろしくお願いします。

○木戸 ゆめ委員 まちづくり委員会の発表を始めます。

事業名は、「集まりん 深まりん かふえりん事業」です。

この委員会では、若者や子どもが活気づいているまちを目指します。活気づいているまちとは、若者の交流が活発に行われ、気軽に相談できる環境が自然と生まれることだと考えます。

今回、私たちが提案する「集まりん 深まりん かふえりん事業」では、まちなみ情報センター1階で交流が生まれ、深まり、若者が主体的に活動できる環境づくりに繋がる空間を目指します。

第1期若者議会でまちなみ情報センターのリノベーションを提案し、従来の情報センターのみの利用から若者の新たな市民活動を生み出す交流の場作りを推進しました。しかし、政策の効果はコロナ禍で減少し、さらに現在は、学習や1人で過ごすための1人席が多く、声を出して交流することに抵抗ができてしまう雰囲気になっています。なので、学習利用だけでなく、カフェのように自然と話し、交流することができるような空間を再構築し、若者が活発に交流できる雰囲気をつくります。

また、まちなみ情報センターは、駅前にあるため、バスや電車などの公共交通機関を利用する人も待合所として活用できるような空間にすることで、さらなる利用者の増加につながります。

この事業により、人が集まり、深まることで若者同士の活動が生まれ、市に活気ができる明るいまちになると考えます。

○田畑夏輝委員 政策案の詳細についてご説明します。

まず、ターゲットは、まちなみ情報センターの主要な利用者である10代から20代の市内の若者を対象としています。

政策案は、若者が活発に交流できるような空間づくりを目指し、まちなみ情報センターの中で外からでもすぐに変化を感じ取れる1階に若者が交流しやすくなるスペースを整備します。

具体的な空間づくりのためには、家具の追加やレイアウトの変更、それらのリノベーションの周知による環境づくりを行います。

追加する家具等は、交流するためのグループ席、学習や待合室としても利用できるように一人用席、ソファを設けます。

また、現状、あまり利用されていないボードゲームが交流の起点となるように、ボードゲームが利用者の手に取りやすいよう、配置の変更、PR等を実施します。

最後に、雰囲気づくりの一環として、カフェのBGMのような曲を流し、しゃべりやすい雰囲気づくりをします。

○梅田禅之助委員 さらにリノベーションだけでなく、政策を周知のために主要な利用者である10代から20代の市内の若者へまちなみ情報センターの利用方法の周知を計画しています。

周知の目的としては、リノベーションの周知とまちなみ情報センターを交流で利用してほしいということを知らない人もいるので、まちなみ情報センターが交流を目的としている施設であることを再度市内の若者に認識してもらうことが兼ねられています。

公共施設には、ポスターを掲示するほか小中高生にはリーフレットの配布、20代の若者にはInstagramの広告を使用し周知を行います。

政策効果の検証について説明します。今年の8月にまちづくり委員会でまちなみ情報センターを利用する若者にまちなみ情報センター利用についてのアンケートを実施しました。結果は、現在学習目的の利用が9割でした。この事業を実施したあとに、もう一度まちなみ情報センターの利用者にアンケートをとり、比較をすることで、事業の効果の検証を行うことができます。

費用についてご説明します。想定される費用は、家具等備品購入費2,948千円、リーフレット等に係る印刷製本費が104千円、インスタ広告に係る広告料165千円、その他消耗品費として8千円、計約3,225千円となります。

以上の政策の実施により、まちなみ情報センターが市民活動の支援や交流活動に対しての新城地区の拠点となります。

さらに、作手地区のつくで交流館、鳳来地区の市民センターほうらいの施設の利用も若者に周知し、まちなみ情報センターと合わせ

て、市全体の市民活動の活性化を見込むことができると考えます。

また、積極的に交流を推進することでコロナ禍により失われていた活動を復活させることができ、これにより様々な人々との交流から得た視点や、経験をもつ多様で主体的な人材の育成の一助となります。

以上でまちづくり委員会の発表をおわります。

○平井緑空議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、若者議会委員会による「Newジェネ事業」です。お願いします。発表者は、古賀 咲菜（こが さきな）委員、菅沼 大輝（すがぬま ひろき）委員です。よろしくお願いします。

○古賀咲菜委員 若者議会委員会では、若者がまちづくりに興味を持てるまち、そしてまちづくりに挑戦できるまちを目指すことを目的として、「Newジェネ事業」という次の世代に繋ぐ事業を提案します。

令和4年度に行われた、若者議会に関するアンケートの結果によると、若者議会についてどのくらい知っているかという問いに対して、「名前は聞いたことがある」という答えが最も多く、「まったく知らない」という答えがその次に多い結果でした。また、若者議会にどのようなイメージを持っているかという問いに対しては、かたいイメージや難しそう、大変そうといった否定的な回答が見られました。そして、若者議会に参加してみたいと思うかという問いに対しては、全体の回答の9割以上が「いいえ」と回答していました。

このほかにも近年の若者議会の委員数が定員に満たない年も見られ、新規委員の獲得が課題になっています。

以上のことを踏まえ、私たちが理想とする「若者が自発的に挑戦できるまち」を目指すためには、まずは小さい頃からまちづくりや

若者議会について知ってもらい、難しそう、かたいイメージといった固定概念を打破するべきだと考えました。否定的なイメージをなくすことによって、若者議会に入ってくれる人を増やし、より多くの若者に身近なまちづくりに気づいてもらうことを目的としています。

ターゲットは、市内の小中学生とし、広報物の作成による若者議会のPRとつながる地域と若者の輪のアップグレードの2つの政策を提案します。

○菅沼大輝委員 では、具体的な政策の内容について説明します。まず1つ目の若者議会のPRについてです。この政策ではポスターとカードの2種類の広報物を作成し、若者議会のPRをします。

現在若者議会は、かたそうというイメージを持たれているため、そのイメージを変えられるよう、ポスターはクスッと笑えるような内容などを検討しています。スライドのイメージのようなデザインを4種類作成し、市内の小中学校、高校、市の施設、駅、コンビニ、飲食店などに掲示しようと考えています。また、スライドのイメージの右端の間違い探しのデザインは小学校を中心に掲示するなど、掲示先の利用者年齢層に合わせた物を掲示することも検討しています。

カードは名刺サイズを検討しており、これはチラシなどよりも邪魔になりにくく、手に取られやすく、捨てられにくいと考えたからです。表面はポスターと同じデザインを使用し、裏面には若者議会についての情報を記載することを検討しています。間違い探しはサイズの都合上適さないためそれ以外の3種類にします。配布先は市内の中学校、高校、公共施設、飲食店のレジ横などを検討しています。

次に2つ目のつながる地域と若者の輪のアップグレードについてです。現在、中学生を

対象とした「つながる地域と若者の輪」が年に1回開催されていますが、参加者数が少ないため、内容をブラッシュアップすることによってより多くの方に参加していただきたいと思っています。現状のものから変更する点は主に場所、時間、内容、周知方法の4点です。

場所は市役所会議室から中学校に変更します。これは市役所という行政機関に中学生が来るのはハードルが高いのではと考えたからです。中学生にとっては学校が最も身近な場所であるため、気軽に参加することができると思います。時間については2時間では短いのではと考え、試験的にお昼を挟んだ4時間に伸ばしてみることにしました。内容としては、午前にフィールドワークを追加し、午後は例年どおりグループワークを行います。フィールドワークを追加することで、新たな気づきにつながり、より広い視点でグループワークに取り組んでもらうことができると考えています。また、周知する際にもフィールドワークが新たな参加のきっかけの1つになることが期待できます。グループワークを終えたあとは、市長の前で考えた案を発表してもらうことで、参加者に市政やまちづくりに参加しているという感覚を持ってもらうことができ、よりやりがいを感じてもらうことができると考えます。周知方法については、現在の白黒チラシからカラーチラシへと変更し、チラシの内容やデザインについてもより中学生の興味をひくようなものを今後検討していきます。

この政策の市へのメリット・効果は、小中学生における若者議会の認知度とまちづくりへの関心が高まり、将来的にまちづくりや若者議会への参加者増加が期待できるということです。参加者が増えることで、若者が新城市の魅力を再発見する機会が増え、若者の流出を抑えるきっかけとなることも期待されます。

最後に、想定される費用として、若者議会PRポスターとカード、つながる地域と若者の輪周知チラシの印刷製本費として210千円、カード立ての消耗品費として5千円、合計215千円を計上しています。

以上で若者議会委員会からの発表をおわります。

○平井緑空議長 ありがとうございます。自席にお戻りください。次に、農業委員会による「seeds for しんしろ～おいしいでつながる地域の○（輪）～事業」です。お願いします。発表者は、二橋 英莉（にはし えり）委員、大谷 裕菜（おおたに ゆうな）委員、小林 倫（こばやし りん）市外委員です。よろしくお願いします。

○大谷裕菜委員 今から農業委員会「seeds for しんしろ～おいしいでつながる地域の○～事業」について発表を行います。よろしくお願いします。

私達は、はじめに新城市の農業の課題が何かを考えました。新城市は、農業従事者の高齢化が進んでいるため、農業に携わる人が減少し、技術が継承されなくなっています。そのため、管理されない農地が増加し、獣害、景観悪化などが問題になっています。また、農業は、天候や価格に左右されやすく経営が大変という面もあり課題とされています。

こういった状況により、農業を通して新城市に住み続けたいと思っても住めないような事態に陥る可能性があります。このため、農業人口の減少を少しでも減らし、農地の管理が行き渡るようにしていきたいと考えています。農業を取り入れ生活ができれば、市の農業が守られ、「住み続けられるまちとなる」となると思います。

新城市には、トマトや菌床しいたけ、さといもなど魅力的でおいしい特産品は既にあり、他市からも求められています。また、ミネア

サヒや鳳来牛のように全国的に評価されているものもあります。しかし、そのことは、地元の人にもあまり知られてないと思います。

私達は、急に農業人口を増やすことは難しいと考えました。また、新規就農者については、市農業課などによるサポートがあり、毎年一定数が就農していると知りました。そこで、私達は就農するまでは考えていないが、農業に興味がある層を中心に、将来的に「住み続けられるまち」となるために、まずは、「知られていない」という課題をクリアするには、「おいしいであふれるまち新城」を知ってもらい、食べてもらい、買ってもらいます。そうやって、新城市の農業に興味を持ってもらえるよう政策を提案したいと思います。

○二橋英莉委員 私たちは3つの政策を提案します。

1つ目は、キャンプ用特産品セットの販売を促進する政策です。

近年、市内のキャンプ場が増え、キャンプに訪れる人が増えています。そこで、キャンプに訪れる人に対して、地元野菜や鳳来牛のセットなど、キャンプで使う食材のセットを販売してもらうよう地元スーパーなどへ提案します。これにより、キャンプに訪れた人が新城市で食材を手に入れ、市の特産品を実際に味わってもらうことで、そのおいしさをPRすることができます。ただし、販売すること自体は、スーパー等の判断によるため、提案するのみとなります。

2つ目は、給食レシピコンテストを行う政策です。

市民への地場産物のPRとして、市内在住の方を対象に給食レシピコンテストを実施します。入賞者には、賞状と賞品を授与するとともに、最優秀賞等に選ばれたレシピを市のホームページや広報紙などに掲載し、地産地消の普及啓発につなげたいと考えています。特に、子どもの頃から地場産物を学び、食べ

ることで子どもたちの農業への関心を生むことができます。

給食コンテストの募集内容としては、以下の2点を条件とします。

1つ目は、地場産物を使用した一品料理で加熱調理した料理であることです。

2つ目は、1品を1人当たり180円程度で作ることができることです。最優秀賞、優秀賞、特別賞、4位、5位を各1名選出します。それぞれ、賞状と記念品も授与します。記念品は新城市の特産品やいいじゃん券とします。

審査方法は、書類審査と試食審査を行う予定です。まず、一次審査で応募のあった中から5品程を選出します。次に二次審査で応募者がレシピを再現したものを審査員が試食し、最終結果を決定します。

審査基準は今年度農業課で実施される事業を参考にします。

○小林倫市外委員 次に農業体験等の紹介について説明させていただきます。この政策の目的は、農業に興味のある方や移住を希望する方をターゲットに市内の農業体験等を紹介し、実際に新城市に来てもらうことで市の雰囲気を感じ取ってもらうことにあります。新城市に移住を考えている人には農業は魅力の1つです。実際に新城市へ足を運ぶことは移住後の暮らしをイメージしやすくなるので大きな効果があると考えられます。農業体験によって新城市へ興味を持ち、移住先の選択肢の1つに入れてもらうことを目標としています。

具体的には、新城市の農業を紹介することに特化したパンフレット、PRポスターの作成をします。これらは移住相談会や名古屋のアンテナショップに掲示するなどをして活用する予定です。パンフレットでは、新城市内で実施される各種農業体験を紹介します。農業体験を紹介するWEBページを作成し、パ

ンフレットからアクセスできるようにQRコードを掲載したいと考えています。また、新城市の雰囲気や農業の情報、農業を生業として移住した人の声、新城でできる趣味などを載せることで新城市に移住するイメージを容易にします。

紹介した3つの政策がもたらす新城市のメリット・効果について説明します。

キャンプ用商品販売促進では、新城市外の人に新城市の農産物を直接知るきっかけをつくりたい。給食レシピコンテストの実施によって住民の地場産物への興味関心が深まり、地産地消の促進を狙います。農業体験等の紹介によって新城市の農業に興味を持つ人の増加を狙います。また、「ちょっと農業を始めたい」という層に新城に移住するきっかけづくりをします。ゆくゆくは休耕地の活用につながるということを考えています。

最後に想定される費用としては、給食レシピコンテストは報償費、消耗品費、印刷製本費、原材料費、保険料、通信運搬費合計で151千円、農業体験等紹介パンフレットは365千円を想定しています。

以上で農業委員会からの発表を終わります。ありがとうございました。

○平井緑空議長 ありがとうございました。自席にお戻りください。

○牧野市民自治推進課長 それでは、3つの事業の説明が終わりましたので、若者議会から市長に答申を行いたいと思います。若者議会議長は演壇前へ、市長は演壇へ移動をお願いいたします。

3. 答申

○平井緑空議長 若者総合政策の実施に関する答申書。

新城市若者議会は、若者総合政策の実施に関して、令和6年度若者予算事業計画を策定

しましたので、新城市若者議会条例第2条第1号に基づき、以下のとおり答申します。

令和6年度新城市若者予算 予算総額 3,956千円。

1. 集まりん 深まりん かふえりん事業 3,225千円。

若者が活気づいているまちを目指します。若者が活発に活動していけるよう新城まちなみ情報センター1階のフリースペースを、交流が促進されるような空間にします。

2. Newジェネ事業 469千円。

若者が身近なまちづくりに気づき、自発的に挑戦できるまちを目指し、小さいころから若者議会を知ってもらうためのPRとつながる地域と若者の輪のブラッシュアップを行います。

3. seeds for しんしろ～おいしいでつながる地域の○～事業 516千円。

「おいしいであふれるまち新城」を知ってもらい、食べてもらい、買ってもらい、新城市の農業に興味を持ってもらえるように、キャンプ用特産品セット販売促進、給食レシピコンテストと農業体験等の紹介を行います。

令和5年11月7日。

新城市長 下江洋行様。

新城市若者議会議長 平井緑空。

4. 市民自治会議会議長あいさつ

○平井緑空議長 それでは、お忙しい中ご出席いただきました、市民自治会議会議長鈴木誠様からごあいさつをいただきたいと思います。

○鈴木誠市民自治会議会議長 市民自治会議を代表いたしまして一言ごあいさつをさせていただきます。

本日は若者議会の立派な答申を聞かせていただきました。まずもって感謝を申し上げますと思います。

この事業の意味ということを自治基本条例に基づいて様々検討し、また審議をする、そ

ういう場の運営を長く執り行って参りました。果たして、若者たちがどのように提案するのか、何を提案するのか、そして、提案するまでにどのような審議経過を持つのか。先輩たちや市役所の職員の皆さんとどのようなコラボレーションがあるのか。その一つ一つに強い関心を持ちながら、この間過ごして参りましたが、今日この場でその報告をお聞かせいただき、しっかりと皆さんが取り組んでおられたことが非常によくわかるものでした。本当に感謝を申し上げたいと思いますし、この答申が、今後市を通じて、また市議会で審議をされて、来年度実現に向かっていくことを心から願っております。

私事ではありますが、私は現在愛知大学の地域政策学部の学部長をしております。この仕事をする中で、今年新しい挑戦を1つ行いました。それは入学試験の改革でして、今年プレゼン入試というのを行いました。募集人員は5名、全国から非常に多くの高校生たちが挑戦をしてくださいました。その中で2名、この新城市若者議会の委員が入っておられました。これは結果としてわかったわけですが、このことは何を意味することなのか。これから大学を初めとして、上級の学校などで、学びをし、そして学ぶことだけではなく、その学んだことを社会に還元をし、社会を変えていく重要な担い手になっていく若者の存在がとても重要であるし、また大学という教育機関は、そのような若者を育て、支援する社会的責務があるということを実感させるものであったんじゃないかというふうに思います。全国から私はこんなことをやっているという立派なプレゼンがありましたけれども、特に重要なのは、自分自身がどうして地域に目を向けたのか。そして自分だけで動くのではなくて、周りの大人や社会人の人たちとどうコラボレーションをし、協働し、そしてまちをどう変えていきたいのか。その中で自分は何をやり遂げたいのか。そしてやり

遂げたら、それがどのような効果をもたらしたのかの効果検証をしっかり行う。そこまでを一貫的に述べた人達が、本当にわずかでしたけどもおられました。ただやった、それから、こんなことをしたいのでは駄目ということなんです。新城のこの若者議会で活動されて、そしてその成果を発表された人たちは、この新城市の若者議会のみで評価されるのではなく、まさに私どものような学校の現場でもこれから求められる人材であるということがよくわかりました。また他の学校でも同じような評価をしてくださるものだと間違いなく確信を持っております。

いろんなところに座って、そして、いろんなところでさらに学びを深めて、この新城を見つめ続けて、そして新城に関わり続けて、まちをより良くしていく、そんな担い手になってほしいと思います。その1つのきっかけが今回の提案ではなかったかなというふうに思います。

ぜひ、市議会の皆様、市の皆様には、今回の若者の皆さんの提案を真摯に受けとめていただきまして、これからご審議をいただきまして、まちを変えていく重要なパートナーとして、若者たちを今まで通り迎えていただけたらというふうに思います。

市民自治会議を代表いたしまして、一言ごあいさつを述べさせていただきます。

ありがとうございました。

5. 市議会議長あいさつ

○平井緑空議長 ありがとうございます。続いて、長田市議会議長様からごあいさつをいただきたいと思います。

○長田共永市議会議長 本日の市長への答申、議長として心より感謝のほうを申し上げたいと思います。まず冒頭。

初めて君たちに会ってから、いい顔つきになりました。これも本日のこの答申の内容が

きっと今の自分たちで、最高のレベルのものが答申されたと確信しております。

これまでの議論の経緯、そして、その中で、こうして結実した答申に対して議会としても、真摯に議論するというのを約束のほう、議長としてします。

そして、その審査結果において、この事業が、政策が採用されたのであれば、君たちはそれを見守る義務があります。そこも十分考えていただければ、議長としては、こんなにうれしいことはありません。

君たちは、気づいてないかもしれませんが、今新城市の若者議会のあり方について、議会からの各日本全国からの行政視察がものすごく多く来ています。ときに、1日3つの自治体の議会議員、町村議員の方が来て、君たちの様子を勉強しに来てくれています。そして、若者議会を始めたこのまちの君たちは今年の代表です。

そんな中で、若者議会をもっと広げようという政策の提案がありました。改めて、オピニオンリーダーの、このまちの若者議会は、さらなる進化を遂げてほしいと思います。

君たちに最初に会ったときに、若者議会の何であるか、若者議会条例を読んでくださいと私が言いました。また、改めて政策ということであれば、新城市議会のホームページには、市長に対して政策要望を出しています。本年度も出しました。本年度も令和6年度に向けての政策要望を出しています。この国の国民の権利に請願、陳情というものがあります。議会としても、君たちと一緒に、君たちの政策を議会の政策要望として堂々と市長に届けたいと私は個人的には思っております。そんな進化もこれからの君たちの後輩へ向けて、アドバイスしていただければ幸いです。

改めて、若者の1番の財産は、時間です。我々の世代より、こればかりは仕方ありませんが、君たちには時間がある。時間というのは、未来です。君たちがこのまちの未来で

あって、そして、この国、ひいてはこの星の未来です。そんな君たちを応援するのは、我々一世代前の大人の責務です。

往々にして若い世代の方の提言や発想は、間違えていることが多いのかもしれない。しかし、それがどうしたんだ。こうした若者議会ということで、それを堂々と主張するのは正しいこと。そして、失敗しても、それを見守る場所、人、こうした場所を議会としても今後もきっちり作っていくことを重ねて約束したいと思います。

最後になりますが、このまちを今以上に好きになってください。そして、この地域を今以上に好きになってください。君たちが、このまちを好きになればなるほど、このまちはきっと良くなります。そんな思いで、私もこれから君たちの活動を今後も見て応援していきますので、本日の答申、心より議長として感謝して挨拶とします。

改めて、ありがとうございました。

6. 市長あいさつ

○平井緑空議長 ありがとうございました。最後に、下江市長からごあいさつをいただきたいと思います。

○下江洋行市長 ただいま平井議長から第9期若者議会の皆さんの若者総合政策の実施に関する答申書を受け取りました。本当にこの間ありがとうございました。

振り返りますと、5月に皆さんがこの場所で、1人1人所信表明をされて、そして今年度の若者議会がスタートしました。そして8月には、中間報告をいただきまして、それぞれ3つの委員会の事業の方向性がだいたい見えてきたのかなというふうに思って聞かせていただきました。

今日の答申は、本当に皆さんがこれまで委員会を重ねていただき、そして真剣になって議論をして、まとめ上げていただいたものと

して尊重し、そして今日のご説明も聞かせていただくことができましたので、中身もしっかりと私も吟味できたというふうに思っております。

これまでの皆さんの活動を通して、市の現状であったり、それから課題はもちろん、これからの将来展望なんかも考えられたりして、このまちのことをより一層掘り下げて、皆さんが考える、そんな6ヶ月間であったのかなというふうに想像しております。

今日、3つの委員会の皆さんから、それぞれの説明をいただきました。簡単に1つずつ、ちょっと感想といいますか、私の思ったこともお話をさせていただきたいと思います。

まず、まちづくり委員会によります「集まりん 深まりん かふえりん事業」であります。若者の交流を促進させるための交流の場の再整備といいますか、整備をするということであります。まちなみ情報センターのリノベーションは、もう10年近く前、第1期の若者議会の事業として取りかかった事業でございます。若者主体の市民活動の場づくりということで、若者らしい発想でまちなみ情報センターのリノベーションに取りかかっていたいただきました。それから、もう10年近く経ちまして再度その時の若者議会が発足した時の思いに立ち返って、もう一度あそこを若者の拠点にしようという皆さんの思いが強く感じられる事業提案でありました。

10月、先月の11日から世界の新都市、ニューキャッスル、この加盟都市との交流の、ニューキャッスル・アライアンス会議に行って参りました。この5大陸、そして17加盟都市という連携の中で、その時には新都市も含めまして8か国の加盟都市が集まりました。もちろんユース、若者の派遣団は、大変活発な意見交換をされまして、私も大いに刺激を受けて参りました。

まちなみ情報センターをぜひ、市内、そして市内外の若者の交流の場所にするのはも

ちろん、あそこを拠点として、世界の若者とも交流ができるような、こんな発展的な展開も想像しておりますし、期待もしております。今、Webで繋いでZoomで会議ができる時代でございます。そんなことも皆さん、今後の展開の中でイメージしていただけたらうれしく思います。

そのアライアンス会議の時には、イギリスから88歳の男性の方も参加されました。この間、新城市の老人クラブ連合会と、コロナ禍でありましたので、Zoomで交流をしていただいた方でございます。その88歳の方も若者だと思います。とても積極的に、これからのそれぞれの加盟都市の地域のあり方、将来はどうあるべきかということをお話することができました。

そして、幅広い方が集う拠点としても、あの場所が活用されれば、なおうれしく思いますし、また市域が大変広いものですから、作手地区にありますつくで交流館、そして鳳来地区にあります市民センターほうらい、そちらの場所も若者が集まる拠点としての活用がさらに進んでいくことを期待しております。

そして次に、2つ目の「Newジェネ事業」についてであります。若者議会を知ってもらうきっかけとなること、そして、つながる地域と若者の輪のブラッシュアップをするという事業でありました。若者議会のイメージというのが、大変そう、難しそうという、そんな印象を持たれているということを皆さん懸念されておられます。これをやはり面白そう、楽しそう、やってみたいなと思ってもらえるような、そんなこの「New事業」の今後の進め方に期待しております。

アンケートによりますと、活動内容については、よく知っている、また内容についても、活動内容についてよく知っているという方が大体10%ぐらいということなんですけれども、やはり、まもなく10年を迎えるこの時に、今一度認知度を高めていくということは

必要なことかなというふうに思っております。そして、これは課題なのかもしれませんが私はそうは思いません。年齢層の偏りということも、高校生の若者議会のメンバーが多いという、今、最近の特徴であるかと思えますけれども、これは私は望ましいことでもあるというふうに思っておりますので、そうした意味からもぜひ、中学生の皆さんに、今年は新たなフィールドワークの手法も取り入れて、この若者議会の認知度を図っていただくような計画も立てていただきました。

ぜひこれからの高校生の若者議会への参加がしっかりと定着するためにも、この点につきましては、力を入れていただきたいと思えますし、また、大学生、さらには社会人の皆さんの参加につきましては、若者議会のOB OGで構成します峯田会長様をはじめとする若者議会連盟の皆さんの奮起に期待をしているところでございます。

そして最後になりますけれども、農業委員会によります「seeds for しんしろ～おいしいでつながる地域の〇～事業」であります。おいしいで溢れる新城というスローガン、とても良いですね。新城のことを知ってもらい、そのためにも、農業に興味を持ってもらう。そういう大変魅力のある事業提案でありました。

新城市の給食でありますけれども、学校給食は来年の9月からの予定でありますけれども、市内の小中学校合わせて17校の給食を共同調理場で調理をして提供するという、こういう方式をとっていきます。そうしたタイミングに合わせて、ぜひ新城市の給食の目玉は何か、これをぜひ、このレシピづくりで、レシピコンテストで、皆さん頑張ってください、これは面白いぞと、そして、飲食店とか、地域の旅館でメニューとして何か発展していくような展開が出てくるようなものになれば、話題性もあると思えますし、本当にわくわくするような事業であるというふうに思

っております。

さらには、移住に繋がるやはり農業体験ということで、この地域の農業の強みをぜひ移住に、そして地域に足を運んでいただくきっかけにしていくという提案もいただきました。

新城市の特産品は、挙げていただきました他にもまだまだたくさんあります。都会にはない、この農地をたくさん抱える新城市には自慢のできる農産物がたくさんあります。そうしたものも含めまして、農業が新城市の成長産業として、総合計画に掲げたように、なっていくためにも、この農業委員会の提案は非常に可能性のある提案であると思いますし、期待をしているところでございます。

雑感のような雑駁な感想になりましたけれども、私は選んでもらえるまちになるためには、意欲のある若い世代に任せること、そして、その背中を大人がしっかりと押してあげること、そして、責任は大人が負えばいい。こういう思いでおります。こんな気持ちを胸に、これからも若者議会のメンバーの皆さんと一緒にまちづくりに取り組んで参りたいというふうに考えております。

これまで、5月から本当に皆さんの協議を重ねられて、今日に至るまでのご労苦に改めて感謝を申し上げます。

先ほども触れられていましたけれども、この後におきましては、議会の皆さんとの、この提案に対する意見交換の場もあるのではないかなというふうに思っておりますし、令和6年度の事業にこの予算提案をしていただいて、予算提案をさせていただきまして、ご審議いただくということになると思います。それまで、さらなる事業の実施方法について、まだまだこんな実施方法がいいんじゃないかという、そういう皆さんの検討作業もあるかと思っておりますので、最後までそうした作業について皆さんにお願いを申し上げます。

最後になりますけれども、今日、この答申に至るまで、メンターの皆さん、そして市外

委員の皆さん、そして委員の皆さんのご家族の皆さん、さらには学校の先生の皆さん、多くの方にお世話になったことと思います。そうした皆さんに感謝の気持ちを忘れずに、これからも活動に力を入れていただきたいと思います。

本当に今日はありがとうございました。以上でおわります。

○平井緑空議長 ありがとうございます。この第9期若者議会のメンバーは、それぞれがそれぞれの思いを持ってこの場に集まりました。始め、このメンバーの皆さんは、この場で所信表明を行い、それぞれの思いを熱く語りました。そしてその所信表明の後、メンバーの中で、それぞれの思いを話し合い、この新城市をより良くするためには何をすべきなのかという話をしました。そして、その話し合いの結果、まちづくり、若者議会、そして農業という3つの観点に絞って、今年度は政策を練るという方針になりました。そして、それぞれのメンバーがそれぞれのやりたいことのある委員会に分かれ、政策を練り、本日まで多くの会議を重ねてきました。

本日の答申を、皆さんの発表を聞いて、私も若者議会委員会に所属していますが、私の委員会も負けじと、かなりとても良い政策ができたというふうに感じていましたが、他の委員会の皆さんもちろん、とてもすばらしい政策ができていたと感じております。また、他の委員会の皆さんの活動に負けないように、私も自分の委員会での活動により力を入れていきたいと感じました。

この第9期若者議会は、本日の答申以降の活動は続いていきます。本日の答申が終わってから、気を抜くことなく、第9期若者議会の委員一丸となって活動を続けていきたいと感じました。

これもちまして、第10回新城市若者議会市長答申を閉会させていただきます。

閉 会 午後7時55分